

10月月例労働経済報告のポイント

一般経済

- 景気は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にあるなかで、引き続き持ち直しているものの、そのテンポは緩やかになっている。
 - ・生産は、持ち直しているものの、そのテンポは緩やかになっている。輸出は、横ばいとなっている。
 - ・企業収益は、減少している。設備投資は、下げ止まりつつある。
 - ・企業の業況判断は、改善している。ただし、中小企業においては先行きに慎重な見方となっている。
 - ・雇用情勢は、持ち直しの動きもみられるものの、東日本大震災の影響もあり依然として厳しい。
 - ・個人消費は、おおむね横ばいとなっている。
 - ・物価の動向を総合してみると、緩やかなデフレ状況にある。
- 先行きについては、サプライチェーンの立て直しや各種の政策効果などを背景に、景気の持ち直し傾向が続くことが期待される。ただし、電力供給の制約や原子力災害の影響に加え、回復力の弱まっている海外景気が下振れた場合や為替レート・株価の変動等によっては、景気が下振れするリスクが存在する。また、デフレの影響や、雇用情勢の悪化懸念が依然残っていることにも注意が必要である。

労働経済

- 労働経済面をみると、雇用情勢は、持ち直しの動きもみられるものの、東日本大震災の影響もあり依然として厳しい。
 - ・ 8月の完全失業率（季節調整値）は4.3%で、3か月ぶりに前月差で改善（0.4ポイント改善）。※ 岩手県、宮城県及び福島県を除く全国値。
 - ・ 就業者数（季節調整値）は5,943万人で、2か月連続で前月差で減少（16万人減）。※ 岩手県、宮城県及び福島県を除く全国値。
 - ・ 雇用者数（季節調整値）は5,201万人で、2か月連続で前月差で減少（12万人減）。※ 岩手県、宮城県及び福島県を除く全国値。
 - ・ 有効求人倍率（季節調整値）は、0.66倍（前月差0.02ポイント改善）。
 - ・ 新規求人倍率（季節調整値）は、1.05倍（前月差0.02ポイント悪化）。
 - ・ 現金給与総額（原数値・速報）は273,580円で、前年同月比0.6%減。